

INFORMATION

宮城県制150周年を記念して、さまざまなイベントや取り組みを行います

仙台・宮城 観光PR キャラクター むすび丸



1 官民あげた事業・取り組みの展開

令和4年度の観光キャンペーンをはじめ、県、市町村、企業・団体などが連携し、官民あげて事業・取り組みを実施します。さらに、この秋には、宮城県150年の歴史をしのび、県躍進の誓いとするため、記念式典なども予定しています。

2 宮城県制150周年記念誌の発行

県制150周年を記念し、これまでの県の歩みや歴史・文化、さまざまな出来事を記録に残すため、記念誌を発行します。手軽にどこでもインターネットなどで閲覧・視聴できる電子ブックと動画版を作成します。

発行時期／令和4年10月頃

県制150周年記念の関連イベント続々!!

観光キャンペーン企画

宮城県の歴史・文化などに関する観光スポットが組み込まれた「乗って応援!伊達バスツアー」を実施しているほか、家族で県内を周遊する観光キャンペーンも企画しています。詳しくはこちら(県ホームページ)



みやぎ水産の日まつり

水産加工品品評会の受賞品をはじめとした、宮城県の魅力ある水産加工品などのPR販売会を実施します。



- 2月16日(水)~20日(日)
JR仙台駅2階 ステンドグラス前ほか

郷土への愛着をはぐくみ 活力あふれる明るいみやぎへ
宮城県150年の歴史において、社会制度は大きな変革を遂げ、科学技術の進展とともに、私たちの生活はより豊かに発展してきてきた。その一方で、地震、津波、水害といった自然災害や戦争など、先人や現在に生きる私たちは数々の苦難に直面してきましたが、幾度もそれを乗り越え、たゆまぬ努力の積み重ねによって、現在の我が県の姿が形づくられてきました。この150年間は悠久の歴史の中の二コマではありますが、私たちにはこれをさらに発展させ、引き継いでいく使命があるものと考えております。

宮城県知事 村井 嘉浩



県制150周年からの未来
東北大学名誉教授 平川 新
明治元年の王政復古は、徳川將軍家から権力を奪いました。翌2年の版籍奉還では大名を知藩事に任命し、権限を大幅に縮小。同4年の廃藩置県で大名から領地を奪い、藩という存在は完全に否定されたのです。藩が大幅な自治権をもち、幕府が中央政府の役割をはたしていた江戸時代の連邦制国家から、行財政の権限を政府に一元化した中央集権国家に、日本は完全に生まれ変わりました。これが明治維新の大改革でした。宮城県は、この廃藩置県で生まれました。戦前までは政府派遣の官選知事でしたが、昭和22年から都道府県知事が選挙によって選ばれるようになりました。これが県制の第二の大改革です。明治以来の官選知事は36人、平均在任期間は2年未満。一方、戦後の公選知事は10人で、在任は平均7.5年。県政に知事のカラーが出るようになりました。明治以来、中央集権で国づくりをしてきましたが、現在の課題は、住民と地域に、より身近な行政を実現するための地方分権を進めることです。人口減少が続く、税収減が予測される将来、県という行政単位がいつまで持続できるか、定かではありません。県制をめぐる過去2回の大改革は、社会と政治の実情に即して求められた改革でした。これからも改革は必要です。富県宮城を目指しながら、日本の未来も見据えて、あるべき地方自治の姿を追求してまいります。

東北大学名誉教授 平川 新



行政区画の変遷(明治元年~9年)

Table showing administrative changes from Meiji 1 to 9, including dates and names of regions like 仙台藩, 盛岡藩, etc.

- 1明治4年7月:廃藩置県により「仙台藩」は「仙台県」に
2明治5年1月8日(新暦2月16日):「仙台県」から「宮城県」に改称
3明治9年8月21日:現在の宮城県域が確定

県は、宮城県誕生150周年の節目となる今年、記念事業を実施します。この事業では、県民一人ひとりが、先人や自らが積み重ねてきた努力と歴史を振り返ることで、郷土への更なる愛着を醸成するとともに、地域の魅力を再発見し、宮城の特色を内外に発信しながら、一層の誘客促進と地域活性化への契機にすることを目的としています。

150周年記念イヤーの幕開け
県は、宮城県誕生から150年という歴史の中で、先人や私たちは、数々の災害や困難を乗り越えつつ、豊かな自然環境、多彩で豊富な食材、歴史や文化に富んだ多様で特色ある地域の魅力を生かしながら、東北の経済活動の中心として歩みを進めてきました。



初代県庁舎(明治4年仙台県庁、明治5年宮城県庁)



2代目県庁舎(大正4年~)



3代目県庁舎(昭和6年~)



4代目県庁舎(平成元年~)



宮城県は令和4年2月誕生150周年を迎えます

1872年(明治5年)2月16日(旧暦1月8日)、宮城県は旧仙台藩を中心とした仙台県から改称する形で成立し、今年で150周年となります。

150 MIYAGI 150th ANNIVERSARY ロゴマークを使って宮城県誕生150周年を盛り上げよう!!

みやぎ150周年記念ロゴマークは、県内の高校生から応募いただいた148点の中から選ばれた作品です。作者は宮城県古川工業高等学校3年生の佐々木七海さんです。郷土愛あふれるこのマークは、宮城県誕生150周年のPRが目的であれば、基本的にどなたでも自由に使用でき

ます。ポスターやパンフレット、ホームページ、店舗入口への掲示などにぜひご活用ください。

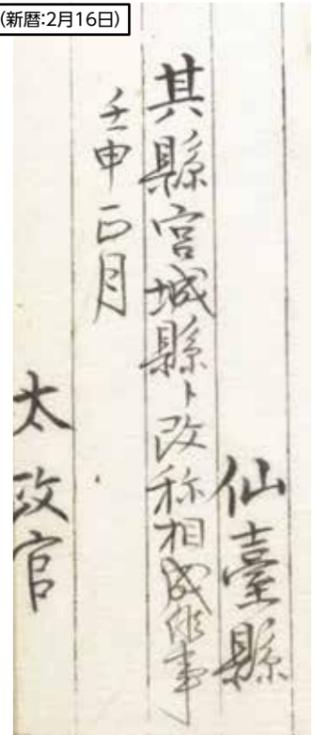
商品パッケージなど、商用にも利用できますが、その際には事前に手続きが必要です。

詳しくはこちら(県ホームページ)



宮城県150年のあゆみ

宮城県が歩んできた150年の歴史・出来事を写真で振り返ります。
(今年10月発行予定の150周年記念誌では、電子ブックと動画で再現します)



太政官から仙臺県を宮城県に改めることが布告「明治5年官布告達第...」
(宮城県公文書館所蔵)

明治・大正 宮城県誕生。そして現代社会の礎の構築



野蒜築港計画が始動(築港跡)
明治政府による東北開発の重点政策として計画されたが、明治17年の台風被害により中止されました



宮城県庁門前図 高橋由一筆(宮城県美術館所蔵)

宮城県の誕生
最初の県庁舎は仙台藩校(学問所)が使われ、「養賢堂(ようけんどう)」と呼ばれました。明治4年に「仙台県庁」となり、明治5年に「宮城県庁」に改称されました



東北帝国大学創立



登米高等尋常小学校創立



仙台市電開通



品井沼排水工事(明治43年完成)
東宮殿下(大正天皇)による行啓の様子(明治41年)



第1回宮城県会開会
(昭和22年県議会に改称)

平成 ITによる社会変革の加速 未曾有の大災害から創造的復興へ



平成31年 東日本大震災の発生～創造的復興へ
被災直後の名取市閑上地区を、被災跡地に整備された次世代施設園芸拠点(石巻市)㊦、災害公営住宅全戸完成㊦



平成28年



平成23年



平成3年 ひとめぼれ誕生



平成25年 東北楽天ゴールデンイーグルスが日本シリーズ制覇



平成15年～21年 平成の大合併
県内の市町村は71から35に



平成9年 宮城大学開学



平成26年 ソチ五輪で羽生結弦が金メダル獲得
仙台市中心部で凱旋パレード



平成19年 仙台空港アクセス鉄道開業



平成14年 みやぎ国体も、2002FIFAワールドカップ™宮城を開催

令和 持続可能な新たな時代へ



令和2年～ 新型コロナウイルス感染症の流行
県内では2度の緊急事態宣言が発令



平成29年 第11回全国和牛能力共進会宮城大会開催



平成28年 仙台空港の民間運用開始
国管理空港として全国初となる民営化



令和3年 東京2020オリンピック開催
宮城スタジアムではサッカー競技を10試合開催



平成30年 農産新品種続々デビュー
だて正夢㊦、ここにこべりー㊦



平成28年 東北薬科大学に医学部新設
医学部の新設は37年ぶり



令和3年 第40回全国豊かな海づくり大会
～食材王国みやぎ大会～開催



平成31年 気仙沼大島大橋開通
東北最大の有人島である大島と本土を結ぶ通称「鶴亀大橋」



平成29年 第41回全国高等学校総合文化祭
「みやぎ総文2017」開催

昭和 戦後、相次ぐ自然災害。日本は高度経済成長へ



昭和47年 宮城県制100年記念式典



昭和35年 チリ地震津波(気仙沼市場付近)㊦、宮城県沖地震(仙台市内)㊦による被害



昭和20年 仙台大空襲



昭和52年 新仙台駅開業



昭和38年 ササニシキ誕生



昭和22年 キャサリン台風(旧登米町内)㊦、アイオン台風(旧東和町)㊦による被害



昭和57年 東北自動車道貫通(若柳金成IC付近)㊦、東北新幹線開業㊦



昭和46年 仙台港開港
第1船となる原油運搬船「丹後丸」入港



昭和32年 仙台飛行場開港(昭和39年仙台空港に改称)

※一部、表記年と掲載している写真の撮影時期が異なる場合があります。